

# 茨木市立 白川小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年10月作成

## 【今年度の結果と取組みについて】

### 〇●国語●〇

#### （領域ごと）

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| ② 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②我が国の言語文化に関する事項   | 課題が残る結果であった |
| ③ A話すこと・聞くこと      | 概ね良好な結果であった |
| ④ B書くこと           | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ C読むこと           | 概ね良好な結果であった |

#### （問題形式）

- |       |             |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

#### （無解答率）

概ね良好な結果であった

#### （その他）

最も正答率が高かった設問・・・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える設問

最も正答率が低かった設問・・・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける設問

最も無解答率が高かった設問・・・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問

#### 分析

「読むこと」については、全国平均を上回っているものが多く、読解力が向上していると考えられる。物語文や説明文を読む学習で登場人物の気持ちを考えたり、筆者の述べたいことを考えたりする授業の成果が見られる。

「書くこと」については、文章の構成の理解などに課題が見られた。説明文の学習の時などに、序論・本論・結論はそれぞれ何を書くべきなのかしっかり理解した上で、書くことができる学習を取り入れていく。また低学年から3つのまとまりで書く（はじめ・中・終わり）という条件付きで文章を書く機会を増やしていく。

文章がどんな役割をしているのかを考える問題の正答率が低い。文章を読み取るためにも、語彙力を高めることが必要だと考える。漢字の学習とともに言葉の意味についても触れる等、その言葉を使って文章を書く学習を取り入れていく。

書き直すときに気を付けたことについての正答率が低い。書写の際に真ん中の線を意識できるように指導することや漢字学習で罫線を意識できるように指導していきたい。

## 〇●算数●〇

### (領域ごと)

- |          |             |
|----------|-------------|
| ① A数と計算  | 概ね良好な結果であった |
| ② B図形    | 概ね良好な結果であった |
| ③ C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

### (問題形式)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった   |

### (無解答率)

概ね良好な結果であった

### (その他)

最も正答率が高かった設問・・・ $1050 \times 4$ を計算する設問

最も正答率が低かった設問・・・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかを問う設問

最も無答率が高かった設問・・・加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できるかを問う設問

### 分析

算数は、すべての項目で概ね良好な結果となった。普段の授業から、式や答えを求めて終わりではなく、解き方の説明を書いたり解き方を友達に伝えたりする学習の成果が見られたと考えられる。また、「知識・技能」を活用する問題だけでなく、「思考力・判断力・表現力」を問う問題を授業や宿題で取り組んだ成果である。

問題の意味が読み取れていない誤答や最後まで読んでいない誤答が複数あった。概数と書いてあると「四捨五入する。」、14と21の数字だけ見て、「最大公約数を求める。」という思考になっていると考えられる。普段の授業から問題をよく読むように指導していく。

分数や割合について意味理解が十分にできていないと考えられる誤答があった。普段の授業で数字だけを意識させるのではなく、量感を意識させたり、図で表したりすることで理解させていく。

(領域ごと)

- |         |               |
|---------|---------------|
| ① エネルギー | やや課題が残る結果であった |
| ② 粒子    | 概ね良好な結果であった   |
| ③ 生命    | やや課題が残る結果であった |
| ④ 地球    | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- |       |               |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった   |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった   |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が高かった設問・・・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかを問う設問

最も正答率が低かった設問・・・実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかを問う設問

最も無答率が高かった設問・・・実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかを問う設問

分析

資料を読み取る力、聞かれていることの意図を読み取る力に課題があると考えられる。資料や文章を読みとることができるよう文章に触れる機会を増やしていく。また、学んだことや学習したことを表やグラフにまとめる学習を増やしていく。

イトミミズを動物であるととらえたことで誤答となった児童が多数いたと予想される。低学年から、自然や科学に興味を持たせ、触れる経験が必要と考える。また、学習の最後には自分で疑問に思ったことを書く時間を設け、その疑問から学習の課題を設定できる学習を取り入れていく。

## 〇●経年比較●〇

### 全体的な傾向についての分析

今年度の正答率の結果については、国語、算数ともに全国平均をやや下回る結果となった。無答率も昨年度と比較すると増加している。しかし、昨年度との対全国比で考えると、国語、算数ともに上昇傾向が見られる結果となった。国語、算数ともに文章を読み取る力や語彙力に課題が見られることから、文章を読み取るためにも語彙力を高める必要がある。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度の結果は昨年度と比較すると、算数に関しては、高位層がほぼ横ばいで低位層が減る結果となった。一方、国語に関しては、高位層と低位層がともにほぼ横ばいとなった。過去5年間を分析すると低位層に関しては、減少傾向であることから、積み重ねてきたことを継続してきたことで一定の成果が見られている。今後も継続していく必要がある。

## 〇●取組み●〇

### 学力向上に関する取組み

#### 1. 学力向上の目標

「子どもたちから多様な考えがでるような、主体的・対話的な授業」について研究する。

(子ども達が主体的に取り組むために)

- (1) 基礎学力の育成
- (2) 学びに向かう姿勢の育成
- (3) 授業の工夫

(子ども達が対話的に取り組むために)

- (4) 仲間づくり
- (5) 授業の工夫

#### 2. 具体的な取組み

(1) 基礎学力の育成

- ① 授業改善の視点の明確化と学習ルールの確立→【東雲スタンダード】の実施
- ② 児童の学習用具の統一
- ③ 宿題(毎国・毎計)
  - ・新しい課題に進んで取り組めるように既習事項の定着を図る。
  - ・全学年、宿題の統一をする。

(2) 学びに向かう姿勢の育成

- ① 子ども達の様子を交流し、学級での取組みを共有する。
- ② 「わかった。うれしい。もっと知りたい。」と思える課題の設定の追求。

(3) 授業の工夫

- ① 模擬授業を行い、全教職員で授業を考える。
- ② 研究授業を学期に1回行う。

#### 3. 学力テストの結果より

課題が見られた語彙力、文章を読み取る力や書く力の定着を図るために、教職員一同で取組みを考えていく。統一している宿題を見直す。系統立ててできる学習内容について考える。対話的な授業を目標として、ペア学習やグループ学習の充実を図る。